

(別紙様式 = 小学校用)

都道府県番号	14
都道府県名	神奈川県

学校名及び規模

学校名	平塚市立勝原小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	4	3	3	4	1	21	32
児童数	117	108	124	109	106	120	2	686	

研究の概要

(1) 研究主題

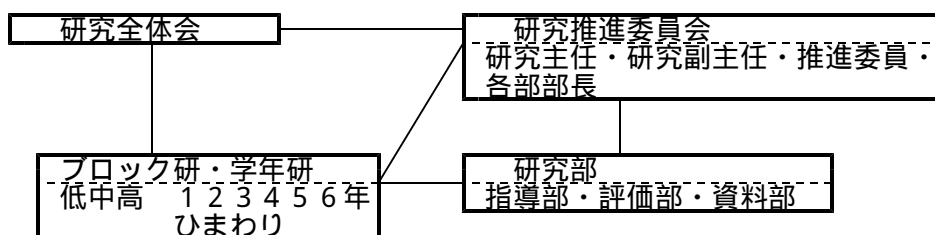
「確かな学力の向上」をめざして
 -算数科の少人数指導をとおして-
 ・基礎的、基本的な内容についての実践研究
 ・算数科における授業改善の工夫
 ①発展的な学習や補充的な学習など、個に応じた指導のための教材の開発
 ②個に応じた指導のための指導方法、指導体制の工夫改善
 ③児童の学力の評価を生かした指導の改善

(2) 研究主題設定の趣旨

本校では、平成14年度「学力向上フロンティア事業」に基づき、神奈川県から
 んできている。研究教科を算数科にしぼり、少人数担当教員と各学年教員との連携
 のもとに、児童一人ひとりの実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図るため
 の実践研究を推進してきた。授業改善の視点を、個に応じた指導のための教材開発、
 指導方法や指導体制の工夫、児童の学力の評価を生かした指導の改善の3点とし、
 児童の理解や習熟の程度に応じた少人数指導のあり方を工夫し、学習指導要領のね
 らいとする「確かな学力」の向上に資することをめざしてきた。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫
 平成15年度



- ・研究の中心は学年での「授業の工夫・改善」であり、教師が授業に集中して取り組めるような体制を作った。
- ・本年度途中から、研究主任・研究副主任・推進委員の3名をプチ推進委員会として、話し合い、連絡調整等を行った。

(2) 研究の実際

○ 教材研究、授業研究、評価研究の徹底

日々の授業の充実を目指し、授業研究の累積によって教師の指導力の向上を図って来た。

① 研究授業の場合

指導案作成 研究全体会 学年研究会での話し合い 指導案再検討 学年間での授業公開 指導案再検討 公開研究授業 学年実践報告会(研究全体会) 指導記録の作成(次の単元、来年度への申し送り)

② 日々の授業の場合

指導計画作成（少人数担当、学年） 教材研究 学年研究会での話し合い
 教材準備（少人数担当を中心に） （必要に応じて）朝スキル等での既習学習のおさらいなどの取り組み 学年間での報告会（授業実践、評価等）
 実践記録の作成（少人数担当）

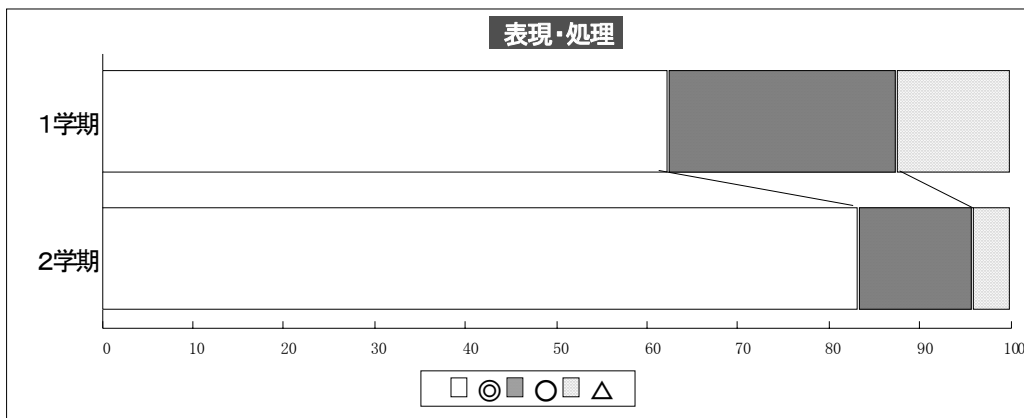
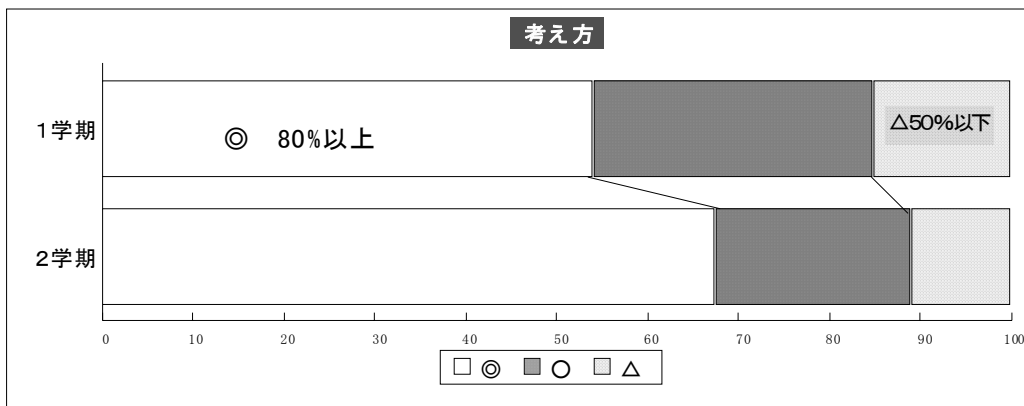
- 資料部が中心になり、授業の記録を残すよう心がけた。（年度末に研究紀要の作成）
- 地域への普及のため、10月16日には、本校にて、「指導方法の改善」研修会を行い、中地区の先生方に授業を公開し、指導をうけた。
 その他
- 評価部が中心になり、評価についての実践研究を学校全体で進めた。
- 講師を招聘し、算数授業についての研修を深めたり、研究推進校を視察し、情報を得るようにしてきた。
- 資料部が中心になり、保護者向けの「算数だより」を作成。地域、保護者に配布している。
- 金曜の朝、8:30~8:45までの時間を朝のスキルタイムとして、各学年で計算プリントなどにとりくんでいる。授業にあった計算練習の他、今まで学習したことのおさらい等も行っている。
- 学年末に児童、保護者へのアンケート、児童への学力テストを行う予定である。
- 校内にある算数教材を見直し「教材一覧パンフレット」を作った。

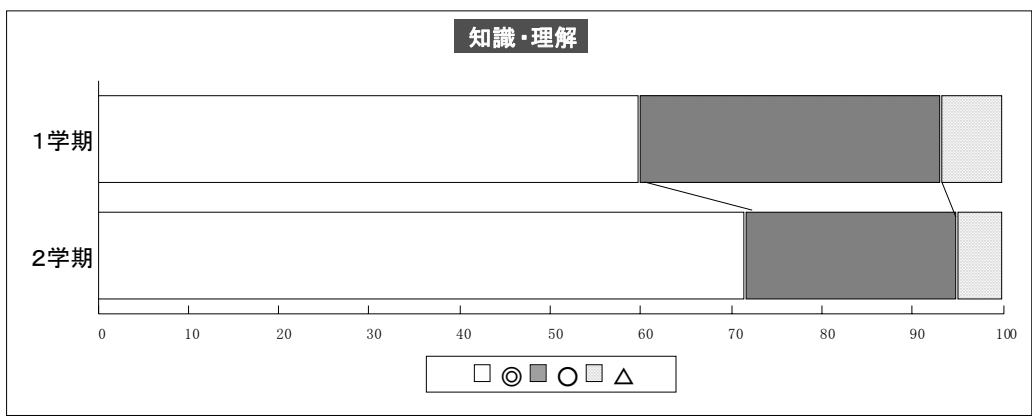
(3) 研究の成果と課題
 成果

少人数担当が加配されている学年では、テストの採点基準を明確にし、少人数担当が一括して採点データについては、各担任と協力して保存している。

6年業者テスト観点別正答率

下記の資料は、1、2学期の6年のテストの観点別評価の正答である。正答率80%以上を◎、50%以下を△とした。1、2学期を比較すると、2学期には、の児童が確実に増えている。特に、表現・処理能力の正答率の上昇が著しい。3学期以降と来年度は、全学年において「数学的な考え方」「知識・技能」についても、常に80%程度の正答率を目指したい。





5年業者テスト平均点

5年生は昨年度から、算数科の授業について、少人数指導を実施している。各テストにおいて、80点前後の安定した平均点を保っている。しかし、全体を見渡して見ると、計算領域の「わり算」の部分がやや低いことが分かる。来年度に向けての課題となる。

課題

- ・学力の評価及び指導への生かし方の工夫
 (「評価」についての共通理解、指導法の改善、授業の改善につながる評価を学校全体で進めていく。)
 (2学期制施行とあわせて、具体的にどのような評価が適切か、提案していく。)
- ・個に応じた指導のための授業改善の工夫
 授業の本質、ポイントの明確化
 (単元における指導内容の徹底分析、指導内容の系統性の確認。)
- ・学力考査の実施と分析
 (継続的評価により研究成果を確認する。)
- ・研究の成果を記録として残し、地域へ普及していく。(研究発表会実施)

(4) 研究成果の普及の方策

- ・地区「指導方法の改善」研修会にて、研究の概要を発表、授業公開を行った。
- ・本校にて平塚市小学校教育研究会算数部会開催。6年の授業を提案。その後、授業についての研究会を行った。
- ・平塚市小学校教育研究会算数部会にて、レポートによる実践報告。(1月「6年生分数のかけ算 ジャンプコースの発展的課題について」)
- ・学期に2回程度、授業風景を知らせる「算数便り」を発行。地域に配布。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級

13～18学級 19～24学級

25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導

一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科

生活 音楽 図画工作 家庭

体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】
 数の概念を分かり易く示す教具や、導入の場面で興味・関心を高めるような教材などについて工夫をしている。